

## 年間第二十五主日（主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

### （一）聖書朗読：マタイ 20：1 - 16

天国は家の主人が働く者を雇うために、朝早く出て、一日一デナリの約束で、労働者を葡萄園に送ったことに似ている。夕方になって、主人は管理人によって賃金を払う。しかし、ある労働者は不平をもらして、最後の組は一時間しか働かなかったのに、一日中労苦と暑さを辛抱した彼らと同じように扱われると言った。主人は答えて：友よ、私が自分のものを自分のしたいようにするのが、なぜいけないのか。それとも、私の気前のよさを、あなたは妬むのかと言った。このように、後の者が先になり、先の者が後になるであろう。

### （二）カテキズムの響き：（『カトリック教会のカテキズム』の番号#543-546、2429-2436； YOUCAT # 440-441, 444-445)

イエスはあらゆる人が神の国に入るように招かれています。このメシア的の神の国は、まず、イスラエルの民族に告げられましたが、すべての国の人を迎え入れるよう定められたものです。神の国に入るには、イエスの言葉を受け入れなければなりません。イエスはたとえ話を用い、人々を神の国の祝宴に招き、葡萄園に入るよう促しておられます。神の国は貧しい人々と小さい人々、即ち、謙虚な心でこれを迎える人たちのものです。また、イエスは貧しい人に福音を告げ知らせ、罪びとを神の国の食卓に招かれるために、遣わされました。イエスの言行は、御父の限りない慈悲を示すだけでなく、さらに、この愛の至高の証しは、罪が許されるように、ご自分の命を犠牲にされたことにあります。

聖書における労働者の権利について、現代の人間が経済上の創意を発揮する権利を持っていることと同じです。各自が自分の才能を正しく用いてすべての人が豊かになるための貢献を行い、その努力の正当な実りを取捨するのは正しいことです。国家と企業の経営者は、共通善のために、合法的権威によって、経済活動を営みます。個人的利益だけではなく、人権の行使、人々の善益を考慮しなければなりません。さらに、状況によって、社会としても市民が仕事と雇用を得るために、就労と就職の機会を与え、公正な賃金を決めなければなりません。労働の報酬は、各自の任務と生産性、企業の状況と共通善を考慮した上で、本人とその家族に物質的、社会的、文化的、精神的生活を相応しく営むことのできる手段を保障するものでなければなりません。

### （三）カテキズムの学び（『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号）

#514-517 労働者の権利と義務：自由の創意、公正な報酬、適切な手段、共通善の考慮など。

国家と企業の経営者の責任と義務：  
善益と人権を守るために、経済活動を監督し、指導し、保障することが必要です。

**最後の祈り：** 社会の経済活動、企業の制度、人類の福祉と労働者の権利のために、祈りを捧げます。最後に、主の祈りを唱えます。